業務取得の謄本、住民票
無許可で持ち帰る
岡山市 職員処分へ

岡山市財政局の主任男性＝50代＝が、業務で6年前に取得した市民の戸籍謄本、住民票の写し各1通を許可なく自宅に持ち帰り、放置していたことが18日、関係者への取材で分かった。市は、地方公務員法が定める信用失墜行為などに当たるとして処分を検討している。

関係者によると、主任が戸籍謄本、住民票の写しを取得したのは2008年の住宅課在籍時。宅地造成の分譲事業を担当し、市有地の隣接地について調べるため公用で申請、取得していたという。主任は現在、別の課で勤務している。

今月上旬、市に情報が寄せられ、主任立ち会いの下で自宅を確認したところ、部屋に放置されていたのを見つけた。聞き取り調査に主任は「なぜ持ち帰ったか覚えていないし、家にあったという認識もない」と話しているという。

個人情報の適正管理を定めた市個人情報保護条例に抵触する可能性が高いが、3年の公訴時効が過ぎているとみられる。市総務局の岸堅士局長は「事実関係を調べている段階であり、事実であれば厳正に対処する」としている。

県警ご当地ネーミング入賞者
福永さん(津山)ら3人表彰

最優秀作に選ばれ、表彰状を受け取る福永さん

根絶！特殊詐欺

高齢者を電話で唆して現金をだまし取る特殊詐欺を防ごうと、県警などが行った〝ご当地ネーミング〟の公募で、最優秀作の「いけん！送るな渡すな詐欺」を考えた津山市、会社員福永寿恵さん(65)と、優秀作に選ばれた2人に18日、知事賞が贈られた。

県庁で表彰式があり、優秀作となった「で～れ～危ねぇ～電話詐欺」の高校2年難波由里恵さん(17)＝岡山市、「あぶねーよ家族に内緒詐欺」の銀行員川広克己さん(56)＝同＝も出席。伊原木隆太知事が「特殊詐欺根絶に向け、広く周知したい」と述べ、一人一人に賞状を手渡した。

最優秀、優秀の3作品は今後、防犯教室や啓発で活用する。福永さんは「被害を一件でも少なくするきっかけになれば」と話した。

県警によると、今年の特殊詐欺被害は11月末現在、135件約7億6330万円。17日には偽のキャッシュカードを送り付け、使用中のカードと暗証番号を送り返すよう要求する新手の詐欺も確認されており、県警は注意を呼び掛けている。（福本尚純）

被害者遺族ら支えよう
NPOと葬祭業者が連携
勉強会や講演会 寄り添う態勢構築へ

NPO法人「おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ」（事務局・岡山市北区）が葬祭業者と連携し、家族を亡くした遺族らを精神面から支える「グリーフケア」の普及に取り組んでいる。講演会などを通じて深い悲しみ（グリーフ）に寄り添う重要性を訴え、社会全体で立ち直りをサポートする態勢づくりを目指している。

ファミリーズは2005年の設立以来、犯罪や事故で家族らを失った人々を電話相談などで支えてきた。「人の死」に接する総合葬祭業いのうえ（倉敷市二日市）がその活動に共感。12年、両者で「グリーフサポートプロジェクトおかやま」と名付けた取り組みをスタートさせた。

遺族らを招いた勉強会のほか、警察、医療関係者らを対象に被害者支援をテーマにした講演会を開催。いのうえ社員には、犯罪被害者遺族が胸の内を語る研修会も開いている。

グリーフケアについて意見交換する川﨑理事長（左奥）ら

11月下旬、岡山市で開いた勉強会には夫を病気で亡くしたという倉敷市の60代女性が出席。「周囲から掛けられる『かわいそう』との言葉は、上から見られているようでつらく感じる」などと語り、ファミリーズのメンバー、いのうえ社員が耳を傾けていた。

ファミリーズの川﨑政宏理事長は「ケアは長期にわたる地域の理解が欠かせず、賛同者を増やしたい」、いのうえの贄田淳一広報企画室長は「支援の方策を学ぶ講座の創設も考えており、まずは取り組みを知ってほしい」と呼び掛けている。

遺族からの相談は毎週土曜日午前10時～午後4時、グリーフサポートプロジェクトおかやま（086－245－7831）。（小川正貴）

男児に期限切れワクチン誤接種
笠岡市民病院

笠岡市立市民病院（同市笠岡）は18日、市から委託されている予防接種で、有効期限が切れた3種混合ワクチン（ジフテリア、百日ぜき、破傷風）を市内の1歳男児に誤って接種したと発表した。これまでのところ、健康異常はないという。

病院によると、有効期限10月9日のワクチンを11月5日に接種。今月9日、病院から市に提出された書類で市職員が気付き、病院は翌日、保護者に謝罪した。17日に医師が男児を診察、異常はなかった。カルテなどで調べ、他に接種した人がいな

好評開催中 第1R(朝とくガ
ミニボート
開設1周年
場外発
SG第29回グランプリ
好評発売